

1 はじめに

本年度は、久慈中との統合を控え、本校78年間の歴史に終止符を打つ最後の年となった。そこで、学校教育活動全体において、歴史を振り返るとともに新校・松風中への希望をふくらませる一年間とする様々な取り組みを行った。中でも、特別活動においては、地元の名産品・茂宮かぼちゃの栽培をはじめとして、二部構成で行った紫苑祭（文化祭）や卒業生を招いての集会活動など、心に残る多くの活動に取り組んだ。

2 本年度の実践事例

(1) 名産品・茂宮かぼちゃの栽培

学区内の茂宮かぼちゃ農家の協力を得て、グラウンドの一角に畑を作り、茂宮かぼちゃの栽培を行った。4月に苗植え式、7月に収穫し、給食のカレーに加えてもらったり、家庭科調理実習でパンプキンパイを作り味わったりした。地元の名産品を栽培し試食することで、郷土愛を育むことができた。



＜カボチャの収穫＞

(2) 紫苑祭（文化祭）

最後の紫苑祭はバラエティに富んだ内容で盛りだくさんのプログラムとなり、午前・午後の二部構成で実施した。「郷土検定坂本中決勝大会」では、各学年代表チームに加えて、第1回大会（2013）で市内大会優勝・県大会出場を果たした卒業生が「レジェンドチーム」として出場した。また、地元の「石名坂お囃子同好会」の方々との共演による和太鼓演奏が、会場を盛り上げた。午後の部は、卒業生のミュージシャン・高見澤淳子さんのコンサートを開催し、本物の音楽に触れる機会となった。在校生19名に対し卒業生や地域の方々等、約500名が来校して、最後の紫苑祭を惜しみつつ楽しい時間を共に過ごすことができた。

(3) 卒業生を招いての集会活動

技能五輪で優勝した高柳哲也氏、水戸ホーリーホックに入団した多田圭佑氏を招き、集会活動を行った。キャリア教育の視点からも有意義な時間となった。

(4) その他

記念動画の撮影、全校生徒で制作し県知事賞を受賞した「坂本中歴史新聞」、3月6日予定の閉校式の準備等、閉校前の様々な取り組みに全校生徒が一つになって積極的に取り組んだ。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・閉校前の様々な取り組みを通して、生徒の自主的、実践的な態度が育まれた。
- ・卒業生や地域の教育力を生かし、様々な閉校記念行事を成功させることができた。

(2) 課題

- ・本校独自の伝統的な活動を、いかにして新校・松風中へ継承することができるか。
- ・坂本中学区の教育力を生かす松風中との連携・協力体制の構築をいかに図るか。